駿河湾および浜名湖の周辺海域に出現した北方性魚類

久保田　正

静岡県の駿河湾および浜名湖の周辺海域は、通常の環境下では一般的に寒流系（以下本稿では北方性と呼ぶ）の生物が伊豆半島から続く伊豆・小笠原海嶺を越えて分布（出現）することは非常に稀です。しかし、年や季節によって親潮の流れが異常に発達して南下した時には、上記海域で採集されることがあります。

ところで、海の生物はその生活様式から大別すると、浮遊生物（Plankton)、遊泳生物（Nekton) そして底生生物(Benthos）の３つに分けられています。ここでは、上記２海域から得られた遊泳生物のうち、大型で割合人の眼に付き易い北方性魚類の出現記録を改めて整理して紹介したいと思います（久保田・塚本、1996)。

1966 年以後は４科５種 17 例の記録があり、以下の通りです。なお、各種の採集年月は多くは１例ですが、２例以上の場合は（　）内にその数例を示しています。

1. ニシン、*Clupea pallasii*　（ニシン科）
   1970 年８月（図 1）
2. サケ（シロザケ)、*Oncorhynchus keta*　（サケ科）
   1966 年 12 月、1981 年 11 月（2 例)、1985 年 11 月、1986 年９月、1986 年 10 月（3 例)、1991 年 11 月（図 2）
3. サクラマス、*Oncorhynchus masou masou*　（サケ科）
   1982 年４月
4. ホッケ、*Pleurogrammus azonus*　（アイナメ科）
   1963 年４月、1963 年５月、1964 年 12 月、1991 年３月
5. イレズミコンニャクアジ、*Icosteus aenigmaticus*　（イレズミコンニャクアジ科）
   1970 年３月（図 3)、1971 年５月（図 4）

上述のように 1991 年のサケ(シロザケ)とホッケの記録を最後としてその後の約 30 年間は、上記２海域からの北方性魚類の出現（採集）は、全くありません。

近年、漁業者の他に釣り人や海の生物に興味を持っている人も多く、見慣れない珍しい魚類であれば注目され易い環境に在りますが、上記の海域からはテレビの報映や新聞による報道は見当たりません。以前に比べて海の状態が変ってしまったことが考えられます。数年前から茨城県の太平洋側の海では、今迄見られなかった南の海に分応するイサキ、キジハタさらにヒゲダイなど多くの魚類が季節により漁獲されることもあって漁業者は驚いています。

今後もこのような状況が続くと、これまでの２海域からの出現記録は、貴重な知見となりそうです。これからもこの２海域からの北方性魚類の出現を見守りたいと思っています。

浜名湖で
ニシンがとれた

図１　ニシンが獲れた時の新聞の報道記事　BL：243mm
浜名湖・都田川河口　迷いニシンと考えられます。
（朝日新聞縮印版昭和 45 年３月号より転写）

図２　サケ（シロザケ）　BL：620mm
駿河湾・興津川下流　発見数は最も多く、1986 年は人工養殖により放流数が多かった年の個体が反映していると考えられます。

図３　イレズミコンニャクアジ（成魚）　BL：822mm
駿河湾・大井川河口　成魚はチョコレート色で親子の形態が全く違うので、以前は別種でナガコンニャクと呼ばれていました。

図４　イレズミコンニャクアジ（幼魚）　BL：136mm
駿河湾・大井川河口　幼魚は体側にある斑紋が特徴です。成魚になるとその斑紋や腹鰭は消失します。